

令和4年度 第5回長野市行政改革推進審議会 議事録（概要）

日 時：令和4年11月28日（月）午後2時から午後4時15分まで

場 所：長野市役所第一庁舎4階 会議室141（Web会議）

出席者：委員「会議室」 普世会長、宇賀田委員、寺澤委員、西脇委員
「Web」 阿部副会長、中谷委員、山平委員
事務局 池田総務部長
〈総務課〉 返町課長、山口主幹、鈴木係長

≪資料≫

- 資料1 第八次長野市行政改革大綱（案）委員修正内容
- 資料2 第八次長野市行政改革大綱（案）
- 資料3 第八次長野市行政改革大綱 注釈
- 資料4 今後のスケジュール（予定）

1 開 会

2 会長あいさつ

3 議 事

○ 第八次長野市行政改革大綱（案）について

2 第八次長野市行政改革大綱が目指すもの

（事務局説明）資料1 P10、資料2 P2（20行目）を参照

資料2のとおり文章形式又は内容ごとに整理して箇条書きのようにするか

< 協 議 >

（宇賀田委員）箇条書きのようにすれば、ターゲットが内容ごとに分かれ明確になるので、この形式が分かりやすいと思う。

（協議の結果）内容ごとに箇条書き形式で記載することを確認

1 行政改革大綱

(1) 行政改革のあゆみと行政改革大綱改定の趣旨

（事務局説明）資料1 P1、資料2 P1（2行目）を参照

< 協 議 >

（委員）意見なし

（協議の結果）委員修正（案）のとおりとすることを確認

1 行政改革大綱

(2) 本市を取り巻く現状と課題

ア 人口減少・少子化、社会や市民生活の変化

（事務局説明）資料1 P2・3、資料2 P1（17行目）を参照

< 協 議 >

(寺澤委員) 資料2の25行目からの部分で、「職員にも大きな影響を与えています」の部分を入れることは良いと思うが、職員への具体的な影響を入れたらどうか。

(事務局) 職員への具体的な影響としては「働き方」が考えられる。職員の勤務時間は、決まっているが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、始業時間を1時間早めたり、遅くしたりし、職員の分散勤務の形態を導入している。また、Web会議システムを活用し、自宅や支所等から会議に参加するなど、時間や場所について柔軟な働き方を取り入れているので、こうしたことを踏まえて記載したい。

(普世会長) 今の説明から「職員の働き方にも」という表現が当てはまるのではないか。

(宇賀田委員) 私が、「働き方と意識」をここに入れたらどうかと申し上げたのは、4の「改革の取組」で職員のことを記載されているが、前の段落の課題では触れられていないので、改革の取組と課題とが繋がるようにすべきと考えたため。

(協議の結果) 職員に係る具体的な影響を記載することとする。それ以外の部分は委員修正(案)のとおりとすることを確認

1 行政改革大綱

(2) 本市を取り巻く現状と課題

ア 人口減少・少子化、社会や市民生活の変化

(事務局説明) 資料1 P4～7、資料2 P1 (34行目)を参照

< 協 議 >

(寺澤委員) 「抑制」という言葉の持つ意味は、制して抑えるというような意味である。確かに社会保障関係費は増加傾向にあるが、必要なものまで抑え込むというこの言葉の持つマイナスのイメージが気になり、修正案として「適正化」を示したもの。

(事務局説明) 第七次大綱までは、抑えようという財政スタンスの強い意志がここに入っていた感覚もあるが、現状は抑え込むというよりも必要なところに的確に予算を充てていくというイメージなので、委員修正案のとおり修正すべきと考える。

(協議の結果) 「抑制」を「適正化」とすることを確認

(寺澤委員) 高齢となってもできるだけのところ、「できるだけ」をなぜ削除したのか。

(阿部副会長) 「できるだけ」を2回繰り返さないようにするために、最初の「できるだけ」を残した場合は、2回目の「できるだけ」を「可能な限り」などの言い方に変えるとか、または、この「できるだけ」を削除しても良いと思う。

(協議の結果) 2回目の「できるだけ」を削除することを確認

(寺澤委員) 「健幸増進都市」という言葉がいきなり出てきている。しかも健康の「康」は「幸」となっている。市長の公約であり、総合計画に入っているということはわかるが、ここに入れるのであれば何かしらの説明が必要ではないか。本当に高齢となってもできるだけ健康維持するのが健幸増進として、一口に言って良いのか疑問である。

(事務局説明) 唐突感はあると思うので、削除させていただきたい。

(協議の結果) 『「健幸増進都市」の実現に向けて取り組むとともに』を削除することを確認

(宇賀田委員) 「社会保障関係経費の適正化を図り」とあるが、行政改革ではこの抑制の方法が全く出てこない。それを盛り込む意図を考えたとき、課題として一つ挙げているからなのか又は公共施設に絡めるつもりなのか。ここでは課題として出しているが、以降の内容に全く出てこないで違和感がある。

(事務局説明) 前段にある「一層財政状況の厳しさが増す」が課題であるが、ここを課題と認識されなければ今のような話になる。後半部分では、財政状況の悪化に関してどう取り組むかについて記載しているため、課題の捉え方にずれが生じてしまう。逆に言うと社会保障関係経費に触れ過ぎなのかもしれない。

(宇賀田委員) 対応として出てくるのだろうというような位置付けの書き方の後ろに出てこないため、すごく違和感がある。

(事務局説明) 行政改革で対応できるものではないためである。前段の「一層財政状況の厳しさが増す」が課題であるとするならば、後段のところは、社会保障関係経費部分を削除し、「持続可能な財政運営を実現するためには」としても問題がないと考える。

(寺澤委員) 何か接続を考えないと繋がらない。

(事務局説明) 接続については、事務局で調整したい。

(協議の結果) 「社会保障関係経費の適正化を図り」を削除することを確認
事務局において、第一段落と第二段落の繋ぎ方について検討する。

1 行政改革大綱

(2) 本市を取り巻く現状と課題

ウ DX (デジタル・トランスフォーメーション) の広がり

(事務局説明) 資料1 P8・9、資料2 P2 (9行目) を参照

< 協 議 >

(委員) 意見なし

(協議の結果) 委員修正 (案) のとおりにすることを確認

2 第八次長野市行政改革大綱が目指すもの

(事務局説明) 資料1 P10~14、資料2 P2 (20行目) を参照

< 協 議 >

(宇賀田委員) 4の改革の取組では四つの項目に分けているので、そこに合わせる形で四つに分けた方が良いのではないかと。

(事務局説明) (3)を「DXの実現に取り組みます。」で一旦区切り、(4)「行政サービスを担う職員については、」で分けたらどうか。

(宇賀田委員) 文章が長くなると読みにくくなるので、(1)の「行政だけでは解決できない複雑・多様化する地域課題や社会課題の解決を図るため」の部分は、(2)の「今後一層厳しさが増す財政状況を見通しながら」で課題として挙げているため、記載しなくても良いのではないかと。

(事務局説明) 課題は(1)の冒頭部分になり、それ以外には記載していないと思うので、(1)の課題部分を削除する形でよろしいかと。

(寺澤委員) 職員の研修についての確認であるが、まずは研修体系等支援制度を構築し、次に職員が選べるような研修をやっていく。それによって多様性のある職員が生まれるということで良いかと。

(事務局説明) そのとおりである。40年前から続いているようなカリキュラムのやり方を今も続けているので、その形を見直さなければいけない。

(寺澤委員) 「働ける」という言葉がいくつかあるが、この使い方で良いのか。

(事務局説明) 調べた中では問題ないと考えているが、「働くことができる」に修正したい。

(協議の結果) (1)の「行政だけでは解決できない複雑・多様化する地域課題や社会課題の解決を図るため」を削除することを確認

(3)を分割し、4の改革の取組と合わせた表記とすることを確認

「働ける」を「働くことができる」に修正することを確認

4 改革の取組

(1) 市民とともに作る市政の推進

(事務局説明) 資料1 P15・16、資料2 P3(2行目)を参照

< 協議 >

(宇賀田委員) 前段の文章と主な取組の内容がほとんど同じだが、繰り返し書く必要があるのか。

(阿部副会長) (1)の2段落目の部分が重複してくるので、1段落目のみの記載としてはどうか。

(協議の結果) 1段落目のみの記載とし、2段落目は削除することを確認

(阿部副会長) 資料2 P3の13行目になるが、これは行政と民間企業が対応するための窓口という意味で良いかと。

(事務局説明) 現在の長野市では、対話の窓口がないイメージのため「窓口」とした。対話の場でも別に問題はないと考えるが、場の提供というイメージが強くなるため、組織的なイメージが薄まってしまう。

(阿部副会長) その辺がすごく難しい。ナスク(NAGANOスマートシティコミッション)は、ある意味一つの窓口でもあり場でもある。どちらもあってしかるべきという

感じは正直するが、対話の窓口というのがわかりづらいと感じる。対話は一対一な感じではなく、もう少し広くという感じの方が良いのではないかと。

(事務局説明) 組織的に捉えるか、場所を通して機会として捉えるかの違いになると思う。両方入れて問題なければ、組織的なものと機会的なチャンスという意味でそれを作りましょうとなる。また、後段では、おそらく連携はある程度できているが、協働まで至っていないという意図ではないかと読み取れるところが気になる。

(阿部副会長) 他のところは連携・協働と言っているが、この部分だけ連携のみとなっているので寂しい感じがする。実際に協働も始まっているので、入れても良いのではないかと。

(協議の結果) 「対話の窓口」を「対話の場と窓口」にすることを確認
「連携の創出」を「連携・協働」にすることを確認

4 改革の取組

(2) 効果的で効率的な行財政運営の推進

ア 多様な人材と働き方による行政運営

(事務局説明) 資料1 P17、資料2 P3 (16行目) を参照

< 協議 >

(寺澤委員) 安定的にというのが「サービス提供」ということであればそのことを記載した方が分かりやすい。

(協議の結果) 「サービス提供」を追記することを確認

(寺澤委員) (資料2 P3の25行目) 短時間勤務は障害者だけで本当に良いのか。今も短時間勤務制度はあるのではないかと。

(事務局説明) 退職した職員や育児関係の短時間勤務制度は現在もある。障害のある職員を対象とした短時間勤務制度は構築されていない状況にある。

(阿部副会長) 民間では、精神障害者や発達障害者のショートタイムワークという取組が広がってきている。フルタイムで働くことはできないが、能力を発揮できる人はたくさんいる。しかし、行政ではそういった人材の活用があまりできていないと思うので、その辺がわかるような言い方になると良いのではないかと。育休、産休の方や会計年度任用職員の方などいるので、例えば「障害者等」としてみるのも良いかもしれない。

(事務局説明) ご意見のとおり、現在本市では、知的障害者や精神障害者、会計年度任用職員を採用しており、4時間勤務の制度も導入している。「障害者等」という表記でよいか。多様性という面をもう少し広げたいという意味でよろしいか。

(阿部副会長) そういう意味である。多様な働き方ができるということがわかることで、行政で働きたいという人はいると思う。

(事務局説明) 例えば、身体や精神、知的な部分の障害のある方でも、育児中の職員や介護に関わっている職員であってもというイメージである。前の方を厚くしてよければ「等」

でくらず具体的な内容を列記する方法もある。障害のある方でも家庭や育児の大変な方であってもという意味合いになる。そういった方々の短時間勤務というようになる。

(寺澤委員) 障害者に短時間で働いてもらえるということについては良いが、労働に対する評価はどのようになっているか。能力に応じて一般職員と同じように評価し、賃金に反映されなければいつまでたっても独立できない。特に精神障害者は、非常に集中力が強く持続性がある。そういうところをしっかりと評価して短時間勤務をやるようにした方が良い。

(事務局説明) 制度的にどの業務の賃金がいくらかを決めなければいけないということになる。

(普世会長) 対象とする人を限定するのではなく、いろいろな職務があり、いろいろなパターンで勤務できる(働き方)はどうか。

(事務局説明) 「多様な働き方」としての短時間勤務というようなニュアンスも参考に検討させていただく。

(協議の結果) 事務局において、委員からの意見を踏まえて修正案を検討することとする。

4 改革の取組

(2) 効果的で効率的な行財政運営の推進

イ 事務事業の見直しと広域連携による課題解決

(事務局説明) 資料1 P18、資料2 P3(29行目)を参照

< 協議 >

(委員) 意見なし

(協議の結果) 修正(案)のとおりとすることを確認

4 改革の取組

(2) 効果的で効率的な行財政運営の推進

ウ 公共施設マネジメントの推進

(事務局説明) 資料1 P19、資料2 P4(8行目)を参照

< 協議 >

(阿部副会長) 利用者の負担ではなく、民間の資金をうまく活用できないかと思う。例えば、ふるさと納税やクラウドファンディングに限らず、考えたらどうか。

(事務局説明) ふるさと納税に関しては、企画部門で取り組んでいる。

(協議の結果) (資料1 P19) 寺澤委員修正(案)のとおり、資料2 P4の9行目「いずれ更新時期を迎える」を「今後、更新時期を迎える」に修正することを確認

4 改革の取組

(3) DXの推進

ア 市民サービス向上のための変革

(事務局説明) 資料1 P20、資料2 P4 (8行目) を参照

< 協議 >

(普世会長)「データをつなぎ合わせて」は、単純につなぐというイメージが強いため、連携とした方が良い。

(協議の結果)「データをつなぎ合わせて」を「データを連携し」にすることを確認

4 改革の取組

(3) DXの推進

イ 行政事務の変革

(事務局説明) 資料1 P21、資料2 P4 (31行目) を参照

< 協議 >

(委員) 意見なし

(協議の結果) 修正(案)のとおりとすることを確認

4 改革の取組

(4) 職員の人材育成と意識改革

(事務局説明) 資料1 P22、資料2 P5 (11行目) を参照

< 協議 >

(宇賀田委員)「行政サービスを担う職員にも多様な人材が育成できるよう」の部分、主語がわかりにくい。

(西脇委員)「社会に定着しつつあるオンライン研修」の説明は必要か。

(協議の結果) 事務局において、委員からの意見を踏まえて修正案を検討することとする。

5 推進体制

(事務局説明) 資料1 P23、資料2 P5 (30行目) を参照 < 協議 >

< 協議 >

(寺澤委員)「庁内に組織する」と「市民で構成されている」は、既に定着しているのであれば、わざわざ書く必要はないのではないか。

(事務局説明) 注釈に説明を記載してはどうか。

(協議の結果)「庁内に組織する」を削除し、長野市行政改革推進委員会についての説明を注釈に記載することを確認

(1)の「市民で構成されている」を削除し、長野市行政改革推進審議会についての説明を注釈に記載することを確認

○ 今後のスケジュールについて

(事務局説明) 資料4を参照

(普世会長)パブリックコメント後に答申する予定となっているが、答申後にパブリックコメントを行う方が良いのではないか。

(事務局説明) 手法として2パターンある。一つは、審議会で審議してこれで良いということ

で先に答申するパターン。もう一つは、市民の意見を聞いた上で若干補正し、完成させたいというパターンである。最近、先にパブリックコメントを行ってから答申するパターンが多くなっている傾向はある。

改めて、会長と調整させていただきたい。

【今後の進め方について確認】

(普世会長) 本日、各委員からのご意見をお聞きし、基本的な方向は共有されたと認識している。そのため、本日のご意見を参考に事務局において修正し、修正内容について私が確認させていただいた上で、委員の皆さんにメール等でお知らせし最終的に確定させたいと思うが、そのような方法で進めてよろしいか。

(委員) 異議なし

【サブタイトル(案)について】

(普世会長) 第八次長野市行政改革大綱のサブタイトル(スローガン)的なものがあった方がよいと思い事務局に提案したところ、資料2の表紙に「これからの時代を担う組織、業務、意識の変革を目指して」と考案していただいた。これについてご意見をいただきたい。

(委員) 意見なし

サブタイトル案について、最終決定する頃までに意見があれば事務局へ報告することを確認

4 その他

5 閉会